

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	コンサートプロダクト1	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	コンサート照明コース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	240時間
単位数	8単位			授業形態	実習
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	鈴木 まい		実務経験の有無・職種	有・コンサート照明	
学習目的					
コンサートやイベント、ライブハウスなどの照明スタッフを目指す。 ライティングデザインをはじめ、照明スタッフとして必要になる基本的なスキルを身につける。機材の名称や特性を理解し、使用することで効果的な演出が可能になる。仕込み、バラシ、ピンスポットに関しては繰り返し練習を行うことで、理解するだけでなく、スムーズに行うことができる力を身につける。また挨拶や礼儀、時間管理は日頃から厳しく指導し、しっかりと身につけていく。					
到達目標					
照明スタッフとして必要になる基本的知識を理解し、ライティングデザインに活用できるようになる。 仕込やバラシの練習を重ねることで、仕込み図から読み取れる内容を考え、使用目的を理解できるようになる。そしてスムーズに動けるようになる。 また、必要な機材数を算出し、機材準備ができるようになる。ピンスポットにおいてはスムーズに動かすことができ、場面ごとの色味に合わせてフィルターの入れ替えが出来るようになる。 技術習得と同時に挨拶や礼儀、時間の管理、メモの取り方、連絡・相談・報告などスタッフとして必要な力を理解できる。					
教育方法等					
授業概要	基礎実習を通し、スタッフとしての基本的知識を身につける。講義型とグループワーク型の授業を採り入れる。 機材の名称や特性、使い方については講義型で学び、明かりの概念や実際の機材を仕込む練習、ピンスポットの練習などはグループワークを採り入れる。小テストを行うことで理解度を確認しながら進めていく。 またアクティブラーニングの要素も取り入れ、知識を得るだけでなく、なぜ必要なのかを考える力を養うことを目指す。				
	安全第一で授業は行う。重量物や昇降物がある為、声を出すことが非常に大切になる。照明スタッフは高所に上がることもあり。 理由のない遅刻や欠席は認めない。挨拶をしっかりと行うことが大切。 グレード試験や小テストを行い理解度を確認する。 携帯電話は使用禁止。教室内は機材がある為、飲食は禁止とする。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができな				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	40%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	0%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	基礎実習【照明コース】1 (照明の仕事のについて)		照明の仕事内容を理解することで、これから学んでいくことの必要性を把握する		
2回	基礎実習【照明コース】2 (様々な一般照明の機材について)		一般照明の各機材の名称と特性を理解できる		
3回	基礎実習【照明コース】3 (PARライトの仕込み・バラしを行う)		取り扱い方と手順を理解し、時間は気にせずに仕込めるようになる		
4回	基礎実習【照明コース】まとめ (グレード試験)		間違えた所は復習し、身につけた上で次のステップに進む		
5回	ピンスポットの各レバーの役割について		役割を理解し、合図に合わせて該当のレバーを動かせるようになる		
6回	ピンスポットの色の持ち方について		レバーの動かし方に加え、カラーフィルターを1枚持って操作できるようになる		
7回	ピンスポット練習(C/I,C/O,M/I,M/O練習)		人を追いかけながらレバーとカラーフィルターを使用し、合図通りに操作できるようになる		
8回	減法混色・加法混色について/ 色フィルターを覚える		減法混色と加法混色を理解する。1つでも多くカラーフィルターの見分けがつくようになる		
9回	符割について		曲を分解して、イントロなど拍数を数えられるようになる		
10回	ライティングデザインについて		明かりを変えるきっかけを考え、書き出せる。色が持つイメージを理解する		
11回	曲に合わせてのオペレート練習		照明操作卓の本番での操作方法を知り、曲に合わせてオペレートができる		
12回	電気・電源の基礎 (電気とは、コネクター・電気容量など)		電気の危険性や数式を理解する。対応しているコネクターや電気容量が答えられるようになる		
13回	信号やネットワークについて		信号線のオスとメスを理解する。ネットワークを学ぶ必要性を理解する		
14回	仕込み図の見方について		図面を見て、理解が出来るようになる		
15回	仕込み図の書き方について		シンボル、コンモ線、カラー番号、回路番号は入れられるようになる		